

2月14日 全校朝会（ミート）



男性も女性も同じように活躍する時代は素晴らしい

おはようございます。

今、中国の北京で冬季オリンピックが開催されています。北京は、日本語ではペキンと発音しますが、中国語ではペイチン、英語ではベイジンと発音します。さて、冬季オリンピックでは、スキーやスケートなど雪や氷の上で行う種目が多いですが、どの種目でも男性も女性も活躍しています。今は、それが当たり前前の景色ですが、オリンピックに女性の種目ができたのは、男性よりもずっと後のことです。

日本では、昔から運動は体を鍛えるためのもので、スポーツとして運動そのものを楽しむようになったのは、明治時代になってからです。日本が初めてオリンピックに選手を出場させたのは、1912年（明治45年）のストックホルムオリンピックで、その時の選手はマラソンの金栗四三（かなくり しそう）選手と、陸上の三島弥彦（みしま やひこ）選手の二人だけでした。世界大会の経験もなく、遠いヨーロッパへの船や汽車の旅の疲れもあって、よい結果を残すことはできませんでしたが、この若い二人の挑戦が、日本のスポーツの世界への扉を大きく開いたと言ってもよいでしょう。

今の日本には、世界で活躍するスポーツ選手が大勢います。世界中のライバルと競い合い、トレーニングを工夫しながら、世界で戦える力を付けてきたのです。初めてのオリンピックで、世界のレベルの高さを知った人々は、「日本が世界で勝つためにはあと100年必要だ」と感じたそうです。日本が初めてオリンピックに参加した1912年から約100年経って、世界で金メダルを目指す日本の選手たちの姿を見ると、ここまでの道のりの長さや選手たちの努力の積み重ねを感じますね。

さて、今では、夏も冬もオリンピックに参加する選手の約半数は女性です。でも最初の頃は、男性がほとんどで女性は数える程しかいませんでした。当時は、社会に出て活躍する女性も少なく、練習の時間や場所、機会も十分になかったり、女性がスポーツをすることへの理解がなかったりしたためです。今は、女性が社会に出て活躍する時代になりましたし、女性でも多くの人がスポーツを楽しみ、世界で活躍するようになりました。また、最後まで女性には無理だと考えられていたマラソンも、1978年（昭和53年）に初めて日本で女子マラソンの大会が開かれてからは、次々に記録が更新され、世界大会では42.195キロメートルを2時間15分台で走る選手も出てきています。

北京オリンピックをテレビで観て楽しみながら、男性も女性も同じように活躍できることは素晴らしいことだと思いました。学校でも男子と女子が机を並べて一緒に勉強していますね。男子でも女子でも、同じように活躍の機会があるということは、男子も女子も同じように尊重されるということです。お互いに相手を思いやり尊重しながら一人一人が自分の良さを発揮して活躍してほしいと願っています。相手に「さん」という敬称を付けて呼ぶのも一人一人が尊重されていることの表れです。みなさんはまわりの人を尊重し、「さん」を付けて呼ぶことができますか。そのような小さな行動の積み重ねがよい社会をつくっていくことにつながると思います。

今日は、男性も女性も同じように活躍できる時代は素晴らしいというお話でした。